

かみ のほ ほん ごう い せき 上保本郷遺跡

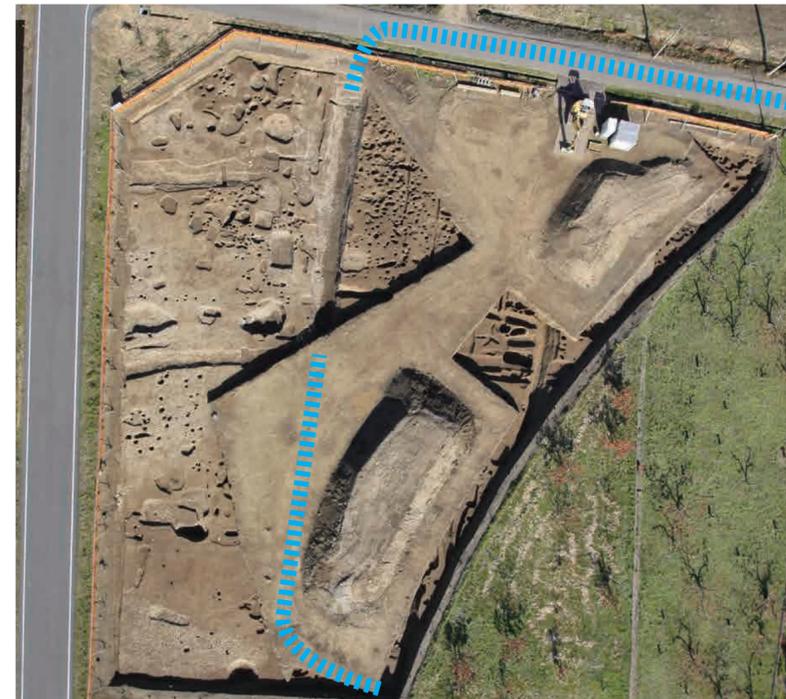
もと す し かみ のほ
本巢市上保



平成 27 年度の調査（4 地点）

上保本郷遺跡は、濃尾平野北縁部に立地する遺跡です。遺跡の北側には国史跡「船来山古墳群」があります。平成 27 年から平成 29 年まで発掘調査を行いました。

発掘調査の結果、古代から中世の鍛冶遺構や居住域などが見つかり、時代ごとに中心となる場所が移動することがわかりました。



発掘区南西部（11 地点）の区画溝 青の破線は想定される区画

左の写真は、発掘区南西部で確認した居住域の西辺を区画する溝です。区画溝は、発掘区の南東隅で同規模の溝を確認していることから、溝の東側が区画の中心であったと考えられます。鎌倉時代の終わり頃に作られ、室町時代に写真に見るような幅 3m を超える規模の溝に作り替えられました。



中世の鍛冶関連遺物

遺物は中世の土師器皿や山茶碗が大半を占めます。当遺跡の特徴として、ふいごはぐち 鞆羽口やといしせい 砥石、清ごうがたなべ 清郷型鍋を転用したてんよう 坩堝といった鍛冶に関する遺物があります。今回の発掘区内において古代から中世にかけて、鍛冶を営み、鉄製品の鍛造だけでなく、銅製品のちゆうぞう 鑄造も行っていたことが明らかとなりました。

